

【市議会最前線】「主権者の声をカタチに」＝浜田市（島根県）

25/08/04 08:00 Nf001

島根県浜田市議会では、議会と市民が双方向に学び合う主権者意識醸成の取組に重きを置いています。その中心にあるのが「はまだ市民一日議会」です。市民が議場に登壇し、自らの意見を議員に直接届けることができるこの取組は、第16回マニフェスト大賞で優秀躍進賞を受賞しました。

令和3年の初開催以降、学生や子育て世代、社会人など老若男女問わず多様な層にご参加いただき、空き家対策や子ども支援、起業促進など市を良くしたいという声を伺ってきました。特徴として、形式的な意見の発表で終わるのではなく、議会や委員会での協議等を通じて政策に反映されている点があります。実際に、登壇者の声をもとに、執行側の行政も同様に必要性を感じ、ボール遊びができる公園の整備や駅付近に学習スペースが設けられるなど、市の政策に反映されています。また、参加者からの提案に議員自らも学びを深め、子ども条例の制定に向けた議員連盟の発足や若者参画の促進の取組など政策へ波及させるための動きもあります。

このように、議会に届けられた市民の声が政策に反映されるというプロセスが評価され、早稲田大学デモクラシー創造研究所が実施する「地域経営のための議会改革度調査2024」において、浜田市議会は全国2位となりました。

主権者参画の取組は「はまだ市民一日議会」だけではありません。教育機関との連携も特徴的で、市内高校生との意見交換会や浜田市にキャンパスを持つ島根県立大学との共同研究なども行い、学生のうちからまちづくりや政治に関わる機会を創出しています。それらの取組が功を奏したのか、小学校側から政治に関する調べ学習でまとめた内容を議員に対し発表したいという依頼もあり、小学6年生2クラス13グループの生徒から、現状の調査や分析に基づいた様々な提案を受けました。



7月に開催した
第5回はまだ市
民一日議会の様
子

議会基本条例に規定する「議会報告会」は、地域井戸端会と称して議会から報告する場から地域の声を聴く場へと転換しています。市域の広い浜田市であるため、市内28会場に議員がグループごとに分かれて出向き、地域住民と意見交換を行いながら政策形成に生かしています。

こうした一連の取組によって、議会が一方向的に「説明する場」から、市民とともに未来を考える「協働する場」へと進化していると言えます。市民一人一人の声を未来につなぎ、住民の福祉の増進へと結び付けていくために、浜田市議会ではこれからも一歩ずつ着実に歩みを進めていきます。
(了)

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。